1月号 いっしん

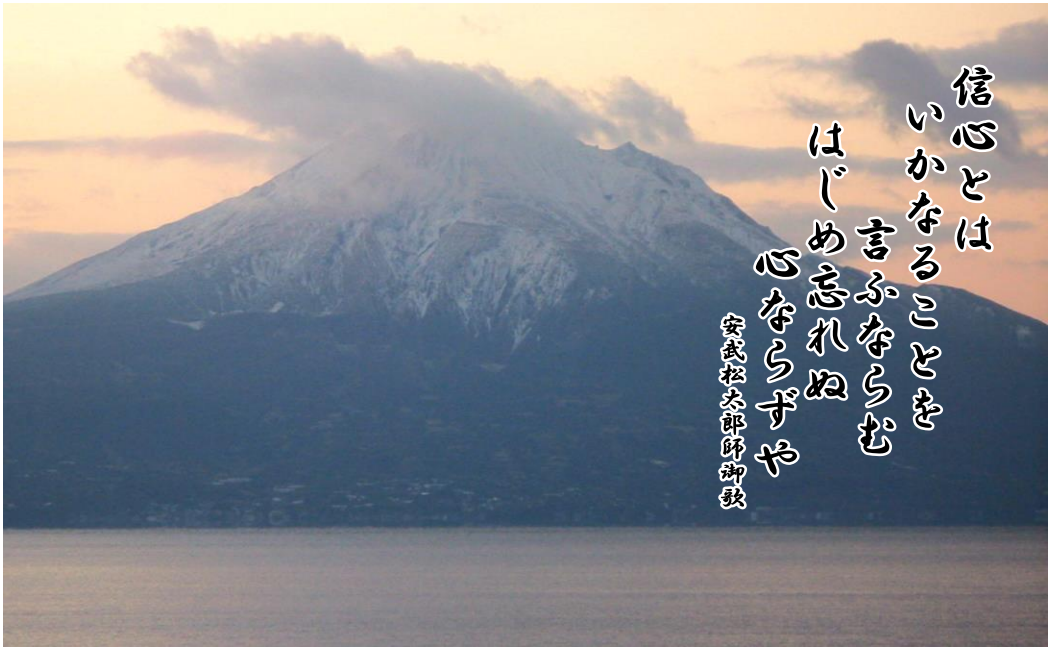
第432号　令和3年(2021年)

発行：金光教加治木教会　〒899-5213 鹿児島県姶良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝　TEL 0995-62-2895　／FAX 020-4665-5653
Mアドレス　konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp　(ＨＰ)http://kajikikon.konjiki.jp/　《HPはカラーです》

喜びは
人の心の
まことなり
日々を喜び
礼びてぞゆけ

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御歌

教祖様138年　教団独立121年　小倉教会布教136年　甘木親教会布教117年
安武松太郎大人70年　加治木教会布教70年



新年明けましておめでとうございます。

それぞれ新しい年を迎えさせていただき有り難いことであります。

そうではありますが、世界的な新型コロナウイルスの流行の真っ最中で、予断を許さない状況です。

また「令和二年七月豪雨」（南九州豪雨）の被害が大きかった、人吉・球磨地方では、七六〇戸、一八五一名の方が仮設住宅で新年を迎えられています（十二月二十四日時点）。人吉市周辺の七市町村（八代市・人吉市・芦北町・津奈木町・相良村・山江村・球磨村）での、見守り・相談等支援対象者は、五二七八人にも及びます（十二月十五日時点）。

今日、コロナ禍に警戒し対策に心を配りながらも、当たり前に過ごせていることをどんなに喜ばせていただくべきでありましょうか。

いっそうお互いのことを思い感染対策に気を付け、広くは世界・人類の助かりを祈り、身近には「令和二年七月豪雨」でお亡くなりになられた方々の御霊の道立てと安心を祈らせていただき、真の復興が前進することを祈らせていただいて行きたいものです。

「教会長新年のご挨拶」（次ページにつづく）

新年をお迎えして…Ｐ1～3　甘木親教会生神金光大神御大祭…Ｐ4～7
教会行事…Ｐ8

令和三年の新年を迎えさせていただきました。

お道では、教祖様一三八年、甘木親教会布教一一七年、親教会初代親先生安武松太郎大人七十年で、加治木教会では布教七十年の記念のお年柄であります。

加治木教会においては、布教七十年のお年柄をお迎えし、記念祭をどのような心がまえで迎えさせていただくべきでありましょうか。

まず大切な点は、親神様・教祖様、霊様方にお喜びいただきご安心いただき、私どもも末々繁盛させていただける真のおかげを蒙って行かねばなりません。

＊

加治木教会布教七十年を迎えるにあたり

加治木教会の布教が始まった年としては、矢野政美先生が再布教された昭和二十六年としていまして、それより今年で七十年となります。

また、それ以前、いったん布教が途切れた時期がありましたが、加治木の地には大正十四年に平島只助先生（甘木教会より布教）がご布教になられていまして、それより数えると布教九十六年になります。

平島只助師

さらに、国分にも信国幾雄先生（甘木教会より布教）が布教されて昭和四十二年に七十才でご帰幽されるまで国分教会（H6閉鎖）において御用されておられます。

そのため、加治木教会の近郷近在においての布教の歴史というものは、その礎となられた先生方の約百年にもわたる、ご霊神様方のご苦労の歴史もあったことをお称えこそすれ忘れてはならないことであります。

そういう意味では、改めてご布教に生涯をお捧げになられた多くのご霊神様方に御礼を申し上げるお年柄ともしなければなりません。

＊

お道の布教というものは、教祖様がみ教え下されましたように「もとをとって道を開く者は、あられぬ行もするけれども、後々の者は、そういう行をせんでも、みやすうおかげを受けさせる。」とのようなご布教の内容があり、その土地にお道の礎（いしずえ）ができるまで「もとをとって道を開く」先生方は「あられぬ行」というご修行に身を殉じておられます。

その「あられぬ行」とは、時に「骨も砕け身を切られるような苦労」とも表現されることがあります。

小倉教会の初代の桂松平先生におかれましても、甘木親教会の初代安武松太郎先生におかれましても、ご家族の死や病にお悩みになられることが数々おありでした。

しかし、数々の苦悩を祈りに祈り通されて、そのできごとの深いところにある、神様の深遠ともいえるお計らいを見出し、意味あることとして捕らえ、信心の力とも肥やしともして行かれました。

＊

しかし、家族の病気や死、あるいは抱える問題の中にある神様の深いお計らいであるご神慮は、だれにでも見出せるものではありません。

信心は、ともすると「願うおかげ」

を目標としやすくなりますが「親神様」や「ご神慮」に照準を当てておくと、人間的・感情的な悲しみや不幸ということも、その後ための、動機付けや基礎作りや準備段階と受け取ることができます。信心の力とも肥やしともなって行くということです。

しかし「願うおかげ」だけに照準を当て続けていると、人間的・感情的な悲しみや不幸は、いつまでも不幸で重荷であり続けます。

そこで、一見不幸とも言えることを修行と受ける心、「親神様」や「ご神慮」に照準を当て続けることのできる心、その強さを神様は求めておられるとも言えます。また、それが「お試し」でもありましょう。

＊

ただ、お道の教師が布教の御用に取り組もうとした時に、その地方に天地の道理とは真逆な不幸な考え方や習俗・習慣、それがメグリとも言えましょうが、そういうものが根付いてしまっているとしたら、布教者の「親神様」や「ご神慮」に照準を当て続けることのできる心も、それなりに強固なものでなければなりません。

さすれば、その土地に根付くメグリが強ければ、布教者の修行･苦労も大きなものとならざるを得ません。

＊

加治木布教を振り返ってみますと、平島只助先生におかれましては、昭和六年に奥様（房代媛）を亡くされ、

平島房代媛

またご子息まで亡くされ、昭和十九年には自ら病没されてあります。

そのことは、加治木周辺域の地に、それほど強固なメグリが潜んでおり、そのメグリと戦い、遂には力尽き敗れられたとも言えましょう。

しかし、九州開道の祖桂松平先生のご遺徳あらたかな時代に、いったんお道の教師となられたご霊神様ですから、必ずや道に報いんがために、加治木の地に後々道が根付くためにご霊神様として、今もお働き続けておられることと拝察されるのであります。

そのようなことに思いを寄せてみると、加治木布教の礎として捨て石のごとく志半ばに没して行かれたご霊神様方にも、どれほどお礼申して行かねばならないか計り知れません。

そのようなことも、加治木教会布教七十年の内容として見落とすべきではないでしょう。

昭和6年 平島房代媛
ご帰幽の時に
建立された奥津城
→

平成11年 矢野政美大人
ご帰幽後に
改修された奥津城
←

＊

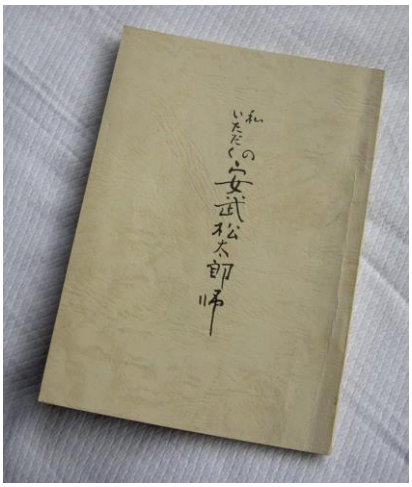
加治木での布教の上で、その後さらに、困難な状況に遭遇しても、乗り越えることのできた信心が、矢野政美先生のお母様が、甘木親教会初代安武松太郎先生から頂いておられた《親神様の御立場に立った信心》であります。

《親神様の御立場に立った信心》とは、矢野クラ刀自が前加治木教会長矢野政美先生に伝えておられたことで『私の頂く安武松太郎師』（矢野政美著）にある次のようなところです。

かくて、この安武恩師に、今生の別れにお参りさせていただき、恩師からいとも厳しく、しかも条理を尽くされての、み教えを頂いて、母の信心は大きく展開させていただいたのである。

それは、「振り返ってみると、今日までの信心は、ただ一身一家の上におかげ蒙らせていただきたいとの一心からのものであった。いわば自己中心で、親神様の御立場というようなことはいささかも考えていなかった。これは申し訳ない相済まないことであった。これからは、今日死んだと思って、少しでも親神様に喜んでいただくような自分になしていただこう。神様に喜んでいただくということは、まず御取次くださる親先生に喜んでいただくことである」と、心に強く誓わせていただいた・・・

布教困難な状況に遭遇しても、乗り越えることのできた、その信心の中身がどのようなものであるか、このお年柄に、さらに深く探求して行きたいものであります。



昭和４６年、布教２０年記念大祭時に発行↖
平成２３年布教６０年記念大祭時に再版

甘木親教会

生神金光大神御大祭

仕えられる

十二月三日、甘木親教会では生神金光大神御大祭が仕えられました。

晩秋が十二月までずれ込み、境内の銀杏の黄葉がまだ残る中、出社・関係教会からは教師のみの参拝ということで、コロナ禍の感染対策に気を配られながらのご祭典でした。

親先生ご祭主のもと、ご参列は甘木教会の在籍の先生方十名で厳かにお仕えになられました。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆

親先生ご教話（要点のみ）

ご神前の右手に、大きな木の切り株の置物がありますが、これは長野県の下条村というところの大山田神社にあった桧(ひのき)の大木の切り株の輪切りです。

桂松平先生が明治三十九年から願いを立てられ、大教会所建築のために、木曽山中の神社の樹齢数百年の払下げとなった桧や杉の木を伐採され運び出されました。

下条村の大山田神社の近くに神社を管理されてある鎮西さんという方がおられ、九州から訪ねるたびにご挨拶に伺わせていただいておりましたが、その方から昨年譲り受けたものであります。

御用材に搬出された桧で、御用材として伐り出された桧の兄弟木ということです。

名古屋城の修復のために伐採されて搬出された折に「九州の金光教の方たちのために」と取っておいて下さっていたのです。

小倉教会の親先生は「小倉には松平先生が木曽で使われた五右衛門風呂がある、それは甘木が頂きなさい」ということでした。

いわれ書きを作ってどこかに展示しなければと思っております。

◇

十一月に御本部に月参拝をさせていただきました折に、御結界で並んでおりましたところ、前の方がお届をしておられました。

すぐ前なので、聞こえてきてしまうのですが、大変有り難く思えました。

七十代後半くらいの男性でしたが、お母様を亡くされたらしいのですが「母が生前、いつもいつも金光様・金光様と言って信心をさせていただいておりました。おかげで子供の私たちも、孫たちも今日おかげを頂いております、有り難うございます」という内容で、いろいろなことすべてに「有り難うございます」と何度も何度もお礼を言われ、お願いはひとつも申されませんでした。

お礼ばかりで、ほんとうに素晴らしいなと思わせていただきました。

◇

初代の親先生の神様に向かわれる姿勢は、「安武松太郎 教語」を読ませていただき、または、前の親先生のお話を聞かせていただきまして、恐れ多い勿体ないという思いで神様に向かわれておられたということを聞いております。

ご神前においてでもそこに神様がおられるような姿勢で前に進まれておられたというようなことを聞かせていただいておりますが、はたして自分自身はどうなのかなと振り返ってみますと、そこまでの思いのないことを相済まないことだと思っております。

初代は、いろいろとみ教えをしておられます。

小倉教会に初めてお参りしてから、み教えを頂いて、信心を求め求めして行きました、その教話を今日私どもは頂くことができており、有り難いことであると思います。

初代も信心が進むごとに教話の内容も変わってきておると思います。

「信心は生きもので前に進むか後ろに退くか止まっておるということがない」と聞いております。

しかし、信心は目に見えるものではないので進んでいるかどうかはわかりません。

いろんなことを通して自分のことを知ることができるということはあります。

だんだんと信心を進めて行きました初代は、信心の極意ということはお話ししておりませんが「極意であろうと思う」という教話があります。

それは「安武松太郎 教語」の次のようなところです、

御理解に、

天地金乃神といえば、天地一目に見ておるぞ。神は平等におかげを授けるが、受け物が悪ければおかげが漏るぞ。神の徳を十分に受けようと思えば、ままよという心を出さねばおかげは受けられぬ。ままよとは死んでもままよのことぞ。

とあり、これは信心させていただく者のためには、信心の極意とでもいうべき、鮮血がにじむような真剣な心構えをみ教えくださったのであります。

それなのに、未だ信心の日が浅く、信心の真意を理解できないために「死んでもかまわぬくらいならば信心の要はない。生きてゆきたいため、助けていただき、救うてもらいたくて信心しているのに、死んでもままよと自暴自棄になるようであれば、神様にお願いする必要はない」と言って、鼻笛を吹く人もあるかもしれませんが、もしもそういう信者があるとすれば、それは信心の見当違いであって、「信心する人の真の信心なきこと」を物語っておるのであります。

とありますが、初代の信心は「信

心は命がけ」だということであると思います。

◇

コロナ禍第三波とも言われております。

このたびも、先生方だけの参拝で信者さん方は、御本部も親教会(小倉教会)も遥拝され、参拝することができませんでした。

いつまで続くのか、どのようになるのか予想もできませんが、それぞれのところで信心をシッカリした心を持たせていただいて進めていかねばならないと思います。

（甘木親先生ご教話　おわり）

あしあと（教会行事報告）

12月

1（火）●報徳月例祭　10時半
3（木）●甘木親教会御大祭
9（水）清　掃　御　用　10時
〃　松田家地神様遷座祭
10（木）●生神金光大神様　月　例　祭　10時半
13（日）御本部布教功労者報徳祭　遥拝
〃　松田家地神様鎮座祭
15（火）連布教協議会（鹿児島教会）10時半
21（木）清　掃　御　用　10時
22（金）●月例祭・共励会　13時半
29（金）清　掃　御　用　10時
30（土）●越　年　祭　13時半

ご霊神様のお立日

一月

中村宗吉 之霊神（4日）昭和61年
松田常衛門之霊神（4日）大正9年
中村正義 之霊神（5日）昭和21年
内村ハルエ 之霊神（6日）昭和59年
有馬幸子 之霊神（9日）平成16年
西本五男 之霊神（11日）平成15年
濱口マツエ 之霊神（11日）平成27年
濱口勝次 之霊神（11日）昭和27年
前田正蔵 之霊神（13日）昭和39年
瀬戸セミ 之霊神（14日）昭和56年
小屋敷 勝 之霊神（14日）平成1年
信國鈴子 之霊神（20日）平成5年
中島ふさ 之霊神（20日）平成16年
福山瑞枝 之霊神（20日）平成21年
瀬戸俊子 之霊神（23日）平成27年
柳園義男 之霊神（24日）昭和8年
本中野イセマツ 之霊神（25日）昭和59年
岡山エク 之霊神（25日）平成20年
桐野仲助 之霊神（27日）昭和21年
瀬尾　清 之霊神（27日）昭和41年

ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあっての今日の私たちであります。

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょう。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の 奉てんを準備しています。

一月 三日(日)
甘木親教会年頭参拝
※コロナ禍対策、県外移動自粛のため未定。

一月四日(月)十時半より
加治木教会
少年少女会
鏡開き・七草
※おかがみ餅を焼いてのぜんざいと七草たこ焼きを作ります！

一月十日（祝）十時半より
加治木教会 月例祭に併せて
成人感謝祭　奉仕
※成人者、玉串奉奠・記念品授与。

一月二十四日(祝)十時半より
鹿児島地方教会連合会
定期　総会
※コロナ禍のため、午前中開催。一教会、教師一名、信徒一名の限定出席で開催。

教会行事

令和三年

1月

1（祝）●元日祭　正午
3（日）甘木親教会年頭参拝
〃　※光風館予約日　10時
4（月）★少年少女会「鏡開き」10時半
9（土）清掃御用　10時
10（日）●月例祭（生神金光大神様）10時半
併せて 成人感謝祭
21（木）清掃御用　10時
22（金）●月例祭・共励会　13時半
24（日）連合会定期総会（鹿児島教会にて）10時
31（日）清掃御用　10時

布教七十年奉迎（令和三年）
改まりの願い

自己中心の信心から
親神様の御立場に立った信心に、
親神様を使う信心から
親神様にお喜びいただき
ご安心いただく信心に、
おかげを信じる信心から
親神様・ご神慮を信じる信心に、
改まらせていただこう。

2月

1（月）●報徳月例祭　10時半
4（木）甘木親教会初代立日
6（土）少年少女会（節分）10時半
9（火）清掃御用　10時半
10（水）●月例祭（生神金光大神様）10時半
17（水）●甘木親教会 報徳祭 11時
18（木）甘木親教会「同釜会」
20（土）清掃御用　10時半
21（日）●加治木教会報徳祭
22（月）●月例祭・共励会　13時半
28（日）清掃御用　10時半

《未定行事》青年会・若婦人会

二月十一日～二月十九日
報徳祭 奉迎
寒中一斉信行
ご祈念・研修～午前五時十五分・午前十時

加治木教会布教七十年記念大祭は、令和三年五月三十日(日)と決まりました。